

『JAIRO Cloud』

宮杉 浩

本学の機関リポジトリを開設して1年になりました。機関リポジトリとは大学や研究機関が所属研究者の論文など知的生産物を収集、蓄積そして提供するシステムおよびサービスの事で多くの大学が設置しています。本学も昨年度から図書館、国際言語平和研究所などが中心となって本学で刊行している学術雑誌や博士論文を機関リポジトリに蓄積して提供しています。今回お話するのは機関リポジトリを構築するにあたって利用しているサービス「JAIRO Cloud」についてです。

「JAIRO Cloud」とは国立情報学研究所が提供している共用リポジトリサービスです。機関リポジトリのシステム構築を各々の図書館で行おうとすると、システム構築費などに莫大な費用を要するため、国内の教育機関リポジトリが増えていかない大きな要因となっていました。そこで国の機関である国立情報学研究所が独自で機関リポジトリソフトウェア「WEKO」をベースにしたシステムを開発し、新たに機関リポジトリを構築する機関向けに平成24年度より「JAIRO Cloud」サービスの提供を始め、各機関のシステム構築の支援に乗り出しました。システム構築に係る費用の心配がなく、コンテンツの登録に作業を集中できることから、各機関からの申請が増加し、10月31日現在で本学を含む319機関がこの「JAIRO Cloud」を利用して機関リポジトリを構築、公開しています。

「JAIRO Cloud」のベースとなっているソフトウェア「WEKO」は画面のデザインや機能のカスタマイズが容易で、各機関の独自性が打ち出しやすくなっています。コンテンツの登録もしやすく、かなり詳細なデータを入力できるようになっているので、検索項目の充実も図ることができます。そして何よりも現在の時点では申請、利用に係る費用がかからないという事が各機関の利用が拡大している大きな要因です。ただし、今後は有料化を含む議論もなされているので、今後の動向には各利用機関は注視する必要があります。

現在本学の機関リポジトリには博士学位論文と本学国際言語平和研究所発行の『研究論叢』、『Cosmica』、『国際言語文化』、そして本学日本語学科発行の『無差』と計4誌のコンテンツが登録されています。今後の課題としては本学で刊行されている学術雑誌はさらに数誌あることから、それらの学術雑誌のコンテンツ登録や画面機能のさらなる向上があります。そのためには機関リポジトリ自体の認知度をさらに高めていただく必要があるため、今回のお話を含め、皆さんにもっと機関リポジトリのことを知ってもらい、利用していただけるようさらなる広報活動をする必要もあると考えています。

今までは本学にない博士論文や学術雑誌の記事は文献複写と呼ばれるサービスを利用して、紙ベースで取り寄せることが主流でした。本学を含め今後各機関リポジトリが充実してくれば、電子媒体による論文、雑誌記事の収集により重きを置かれることになるでしょう。皆さんも今からは是非機関リポジトリにもっと触れていただけたらと思います。

みやすぎ ひろし（係長・管理運営課）